

## 6 各コースごとの指導

### <わくわくコース>

#### (1) 児童の実態と本時の目標

本コースのほとんどの児童が言語による理解力が不十分であるため、数学的な考え方が育ちにくい傾向がある。前学年で練習を重ねて覚えた計算方法も、その意味を十分理解しきれていないため、時間がたつと忘れてしまいがちである。そこで、本時では、2桁に及ぶ繰り下がりの仕組みを視覚を通して考え、自分なりに説明することでその意味を理解することを目標とする。

#### (2) 学習指導過程

| 主な学習活動  | 教師の支援・援助活動   |
|---|--|
| <p>1 前時の652 - 365との違いを話し合うことを通して本時の課題をつかむ。</p> <p>2 302 - 165の筆算の仕方を考える。</p> <p>(1) 模型のお金の教具を使ったり、パソコンソフトを操作したりして考える。</p> <p>(2) 筆算の仕方を発表し合う。</p> <p>3 同じような問題の筆算問題の中から選んで挑戦する。</p> <p>4 本時の学習でわかったことや次時の課題などをノートにかく。</p> | <p>前時の問題との違いを位の部屋に模型のお金を入れて考えることで、本時は一の位同士がひけなくて、十の位が空位になっているという違いがわかる話し合いにする。</p> <p>空位の十の位にどこから何を持ってくればいいのか助言する。<br/>先に答えを求めた児童には、その仕組みが説明できるよう模型のお金や図を使って表すよう指示する。</p> <p>見通しがうまくもてない児童にはパソコンソフトでのシミュレーションを見て考えるように声をかける。</p> <p><b>評</b> お金を使った位取り板の上で、お金を動かして筆算の仕組みを自分なりに説明できたか。</p> <p>自分なりの図をノートにかいて、説明しようとしている児童を賞賛し、黒板の模型を使って説明するよう指示する。</p> <p>(評価)【考】「(3位数) - (3位数)で、繰り下がりが2桁におよぶ筆算を既習事項をもとに考えることができる」<br/>B：十進位取り記数法の仕組みをもとに、十の位から繰り下げられないときは、百の位から繰り下げることができる。<br/>A：(3位数) - (3位数)で、繰り下がりが2桁におよぶ筆算も既習事項をもとに、自分自身で考えることができるとともに計算棒などを操作しながら、計算の仕方を説明することができる。</p> <p>どんな3位数の減法の問題でも、十進位取り記数法の仕組みを使えば、2位数のときと同じように、正確に答えを求めることができることに気づくよう声をかける。<br/>どこかの位に空位ができるときは特に気をつけなければいけないことに気づくよう声をかける。</p> <p>少し筆算の仕組みが理解しにくく悩んでいる児童には、パソコンのシミュレーションを見ながら考えるよう声をかける。<br/>筆算の仕方についてのまとめだけでなく、自分のがんばりや友達の表現のいいところもまとめるよう助言する。</p> |